

T4章 4種類の時間表現	61
T4.1 時間表現には4種類ある (62)	
(1) 有時相表現……時と相の両方が現れる (63)	
(2) 時のみ表現……時相の「時」のみが現れる (66)	
(3) 相のみ表現……時相の「相」のみが現れる (68)	
(4) 無時相表現……時と相のどちらも現れない (70)	
T4.2 3つ以上の事象の時間関係 (72)	
疑似絶対テンス (73)	
T4.3 なぜ4種類の時間表現があるのか (74)	
T5章 時間の否定	75
T5.1 否定は時空をカラにする (76)	
T5.2 時間的否定 (77)	
T5.3 「している」の否定 (78)	
T5.4 過去を表す未来形・現在形 (79)	
T5.5 「ご飯食べた？」への否定回答 (80)	
質問の解答例	85
T1章の質問解答例 (86)	
T2章の質問解答例 (94)	
T3章の質問解答例 (98)	
T4章の質問解答例 (103)	
T5章の質問解答例 (105)	
あとがき (107)	

コラム目次

コラムT1 詞と語、みかけの詞と語 (26)
コラムT2 スペイン語の文法は間違い？ (28)
コラムT3 日本語構造伝達文法のモデル (82)
コラムT4 $5+3=8$ を構造図で表せる？ (83)
コラムT5 否定とうそ (肯定・否定／ほんとう・うそ) (84)

コラムT1

詞と語、みかけの詞と語

詞 ……この文法では、形態素を「詞」とよんでいます。形態素とは、それ以上分解すると意味が消失してしまう、意味をになう最小の単位です。

それで、yom-（読む）や mi-（見る）のような動詞語幹を「動-詞」といいます。動詞はそのままでは使わずに、必ず、-u や -i, -eba, -e などの描写詞をつけます。

動-詞（文法の単位） …… yom- / mi-

描写詞（文法の単位） …… -(r)u / -(i) / -(r)eba / -e / -ro / -(y)oo

動詞語（発話の単位） …… yom-u, yom-i, yom-eba, yom-e
mi-ru, mi-Øi, mi-reba, mi-ro

-Øi は -i と同じ他属性連続描写詞です。

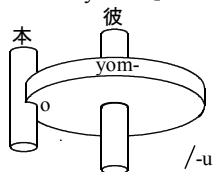
「詞」は前か後に結合手「-」を持っていて(例:-u, yom-), 何らかの要素を要求しますので、不安定です。

語 ……前後に結合手(-)を持たなくなって安定した単位体を「語」とよびます。

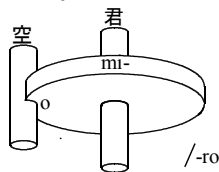
yom-u ……前後に結合手(-)がありません。

国語文法の文節（1自立語に付属語が付いたもの）に似ていて、語は発話の単位となります。

動詞語は上に見た「yom-u」「mi-ro」のようなものです。



図T1-1 彼-ga 本-o yom-u



図T1-2 (君-Øi) 空-o mi-ro

名詞語は名詞に格詞がついて安定したものです(上図参照)。

名-詞（文法の単位） …… 彼-, 本-, 君-, 空-

名詞語（発話の単位） …… 彼-ga, 本-o, 君-Øi, 空-o

みかけの詞 ……語に詞が併合して、ひとつの新しい詞が形成されたもので、結合手「-」で終わります。併合手は「=」で表します。

みかけの動詞 …… yom-i=mas- mas は古語の動詞「まゐらする」に由来

みかけの名詞 …… yuk-u=e- e は古語の名詞「辺(へ)」に由来

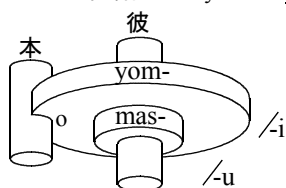
問T1-41 「お金！」のような名詞の一語文といわれる文の名詞は「語」ですか。

問T1-42 「です」は詞ですか、語ですか、何ですか。

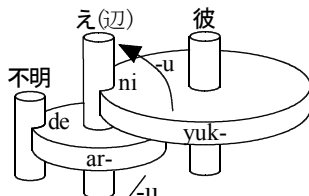
みかけの語 …みかけの詞に描写詞や格詞が結合してみかけの語になります。

みかけの動詞語 …… yom-i=mas-u

みかけの名詞語 …… yuk-u=e-ga



図T01-3 本-o yom-i=mas-u



図T01-4 yuk-u=e-ga (行方が)

タ、テイルはみかけの詞を形成

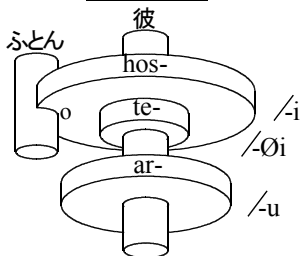
完了などのタの構造は「である」と同じですので、みかけの詞になります。

である hos-i=te-Øi=ar-u

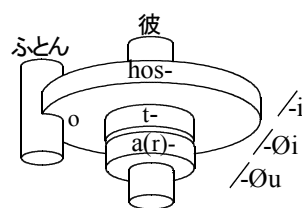
この -i と -Øi は他属性連続描写詞です。

た hos-i=t-Øi=a-Øu

後ろの -Øu は基本描写詞です。



図T01-5 である hos-i=te-Øi=ar-u



図T01-6 た hos-i=t-Øi=a-Øu

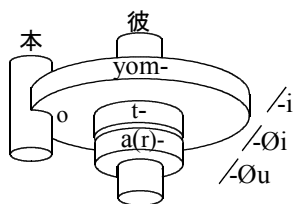
それで、「読んだ、見た」、「読んでいる、見ている」は次のようになります。

読んだ yom-i=t-Øi=a-Øu (下左図)

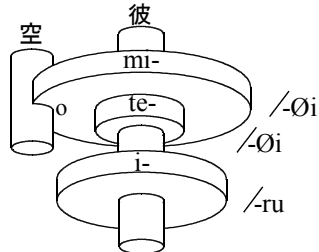
見た mi-Øi=t-Øi=a-Øu (下左図)

読んでいる yom-i=te-Øi=i-ru (下右図)

見ている mi-Øi=te-Øi=i-ru (下右図)



図T01-7 よんだ yom-i=t-Øi=a-Øu



図T01-8 みている mi-Øi=te-Øi=i-ru

「よんだ」は「よみた」の音便形です(A3章)。

「よんだ yom-i=t-Øi=a-Øu」「みている mi-Øi=te-Øi=i-ru」は見かけの動詞語です。

スペイン語の文法は間違い？

日本人はひらがなで文法を考えることが身に染みついでいて、疑うことがありません。「読まれる」は yom-ar-e-ru だといくら言っても、いいや、「読ま-れる」だと言い張ります。あなたはどう思いますか。

これは無理もないことなのです。日本語は音節(拍)が「あ a, き ki, す su, て te, の no」のように母音で終わることが多いため、文表記には音節文字である「かな文字」が非常に便利で、自然と文法も「かな文字」で、日本語にしか通用しない拍単位で考えるようになってしまったからです。その結果どうなったのかについて、スペイン語の動詞にカナ文字を当てはめることによって考えてみましょう。

	<u>am</u> -ar	愛する	<u>viv</u> -ir	生きる
(私は)	<u>am</u> -o	<u>ア</u> モ	<u>viv</u> -o	<u>ビ</u> ボ
(君は)	<u>am</u> -as	<u>ア</u> マス	<u>viv</u> -es	<u>ビ</u> ベス
(彼は)	<u>am</u> -a	<u>ア</u> マ	<u>viv</u> -e	<u>ビ</u> ベ
(私たちは)	<u>am</u> -amos	<u>ア</u> マモス	<u>viv</u> -imos	<u>ビ</u> ビモス
(君たちは)	<u>am</u> -ais	<u>ア</u> マイス	<u>viv</u> -is	<u>ビ</u> ビス
(彼らは)	<u>am</u> -an	<u>ア</u> マン	<u>viv</u> -en	<u>ビ</u> ベン

「amar 愛する」は、スペイン語の文法では am- が語幹(不変化部)で、-o, -as, -a, -amos, -ais, -an が語尾です。これを日本語のようにカナで扱うと、語幹は ア で、モ, マス, マ, マモス, マイス, マン が語尾ということになります。正しい語幹は am- でしょうか、ア でしょうか。スペイン語文法は間違っているのでしょうか。

本当に、なんということでしょう。日本語は昔からこれをやっているのです。

同じことですが、もうひとつ例を見ましょう。「vivir 生きる」の語幹は viv- で、語尾が -o, -es, -e, -imos, -is, -en です。これをカナで扱うと、語幹は ビ で、語尾が ボ, ベス, ベ, ビモス, ビス, ベン ということになってしまいます。

「読む yomu」の語幹は yom- ですが、国語文法では「よ」が語幹です。

<u>yom</u> -aseru	よませる	<u>tabe</u> -saseru	たべさせる	<u>mi</u> -saseru	みさせる
<u>yom</u> -i	よみ	<u>tabe</u> -Øi	たべ	<u>mi</u> -Øi	み
<u>yom</u> -u	よむ	<u>tabe</u> -ru	たべる	<u>mi</u> -ru	みる
<u>yom</u> -eba	よめば	<u>tabe</u> -reba	たべれば	<u>mi</u> -reba	みれば
<u>yom</u> -e	よめ	<u>tabe</u> -ro	たべろ	<u>mi</u> -ro	みろ
<u>yom</u> -oo	よもう	<u>tabe</u> -yoo	たべよう	<u>mi</u> -yoo	みよう

「食べる taberu」の語幹は tabe- ですが、国語文法では「た」が語幹です。「見る miru」の語幹は mi- ですが、国語文法では「語幹はない」！ ことになっています。

日本の学校では今もこれが教えられています。これを異常と感じられる日本人は、日本にいったい何人いるのでしょうか。20人くらいはいるのでしょうか。

コラムT3

1章, 16 ~ 17 章, A5章

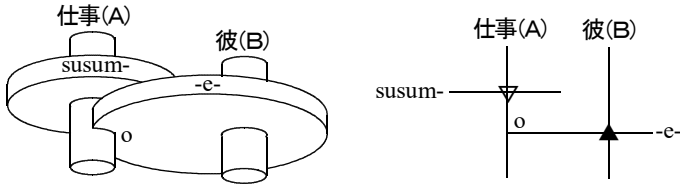
日本語構造伝達文法のモデル

日本語構造伝達文法は「構造モデル」と「時空モデル」を設定しています。

★[構造モデル]

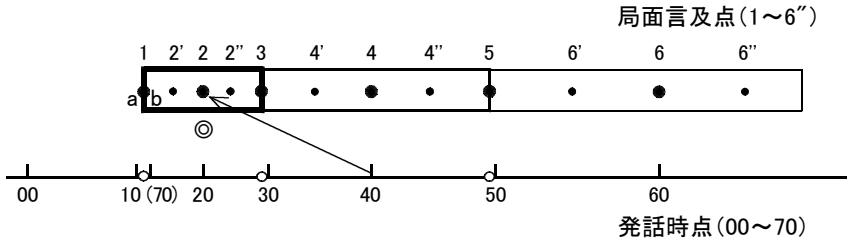
★[時空モデル]……<時間モデル>と<意識空間モデル>があります。

★[構造モデル] (構造図)



★[時空モデル]

<時間モデル> (時間図)



<意識空間モデル> (意識空間図) (時域図)

	過去	現在	未来	
③ 0%	過去 0	現在 0	未来 0	③ 0%
② 50%	過去 50	現在 50	未来 50	② 50%
① 100%	過去 100	現在 100	未来 100	① 100%

コラムT4

S2.1hs①

5+3=8 を構造図で表せる？

「5+3=8」は構造図で表せるのかという疑問があります。

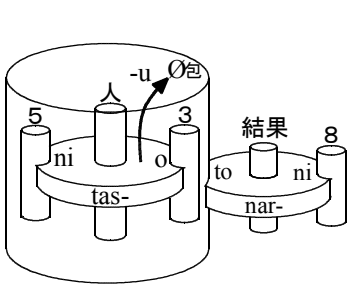
そこで検討してみます。この数式は「5たす3は8」と読み、意味は通じますから論理性に問題はないようです。しかし、この読み方は省略されているようです。省略されない、日本語の文の形にすれば次のようになるでしょう。

5に3をたすと8になる。

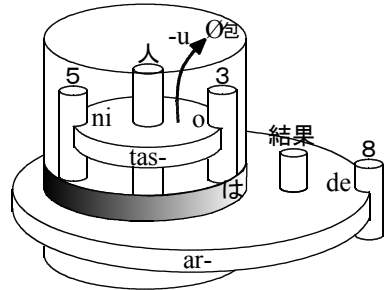
すると、動詞は「たす」と「なる」の2つになります。では、その主体は何でしょう。たとえば、「人がーたす」、「結果がーなる」のように考えられますので、「人・結果」あたりでしょうか。

(人が)5に3をたすと、(結果が)8になる。

「5」「3」「8」は実詞(名詞)ですから、動詞とは格(論理関係)で結ばれています。「5」は「に格」で、「3」は「を格」で動詞「たす」と結ばれています。「8」は「に格」で動詞「なる」と結ばれています。「と」は国語文法では「接続助詞」ですが、構造では条件を表す「と格詞」です。それで、下の左図のように図示できます。



図T4-1 5に3をたすと8になる



図T4-2 5たす3は(結果が)8である

これで一応良いこととなりますが、5+3=8は次のような文でも言えます。

[5たす3]は8である。 [5たす3]が8である。

このように捉えると、これは複主語の文であることとなります。

[5たす3]の_iは結果が8である。

計算式特有の表現で名詞化された「5たす3」が原因で、「結果が8である」が結果になっている「因果の複主体」(S2.1hs①)です。構造は上の右図のようになります。

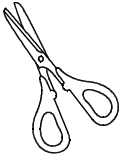
「結果」は自明ですので、表現しなくてもかまいません。また「である」は「になる」であることもあります。この場合は、図の de ar- の部分が ni nar- になります。

問T5-7 「5たす3イコール8。」「5たす3イコール8である。」を説明してください。

コラムT5

否定とうそ（肯定・否定／ほんとう・うそ＜真・偽＞）

否定とは、「概念の示す事象によって満たされるはずの時間と空間がカラであることの認識」であると考えられます(T5.1)。図では破線で示します。満たされていれば肯定の認識になり、実線で示します。



図Tコ5-1 ある(肯定)



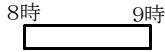
図Tコ5-2 ない(否定)



図Tコ5-3 歌う(肯定)



図Tコ5-4 歌わない(否定)



図Tコ5-5 歌う(肯定)



図Tコ5-6 歌わない(否定)

上に図示したのは「ほんとう」の表現です。概念と事象存在の有無が正しく対応しています。これに対して「うそ」とは「概念の示す事象によって満たされるはずの時間と空間がカラであるのに、満たされていると認識・表現すること」です。



図Tコ5-7 ある(うそ)

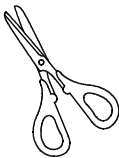


図Tコ5-8 歌う(うそ)



図Tコ5-9 歌う(うそ)

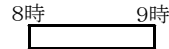
また逆に、「概念の示す事象によって満たされている時間と空間をカラである」と認識・表現すること」も「うそ」と言えます。(現実と対応しない表現がウソです。)



図Tコ5-10 ない(うそ)



図Tコ5-11 歌わない(うそ)



図Tコ5-12 歌わない(うそ)

肯定・否定は、基本的には事象存在の有無の認識・表現です。ほんとう・うそ(真・偽)は、概念(語)と事象存在の有無の対応関係の認識・表現です。

問T5-8 「田中さんは男です。」の文を否定してください。それはうそですか。